



艷道
五
常
一

9
3613
1

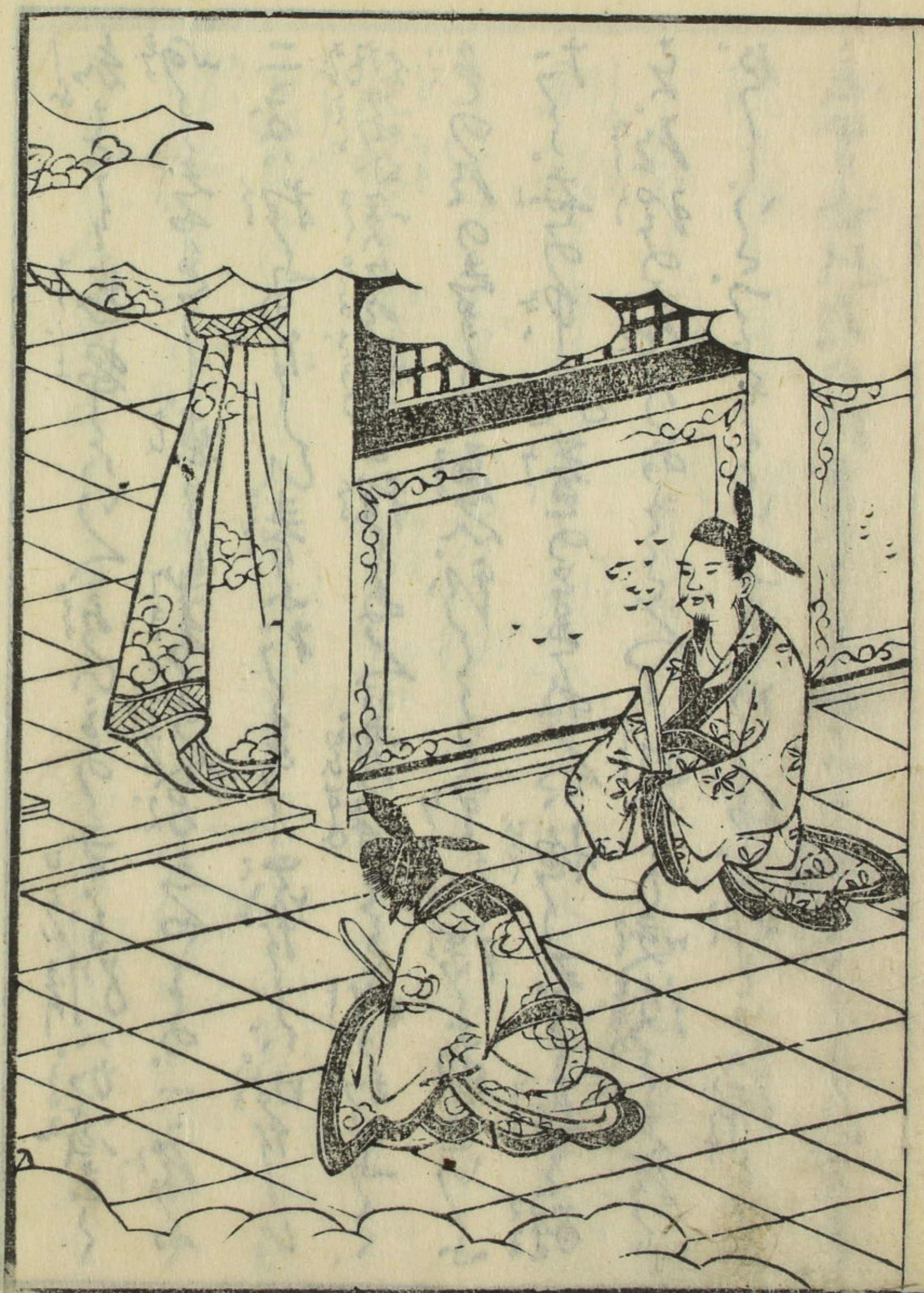


る事一乃二何らの種に於て人
れを其のまゝに上り下りする事
何事とせしむる事おまじか
りし事なほ其のまゝに
文者何れなる事と
まじき事なり

むる事みおけみとの
公乃其の自ら
あやうなる事
し好まぬ事
識つ事
なほ其のまゝに

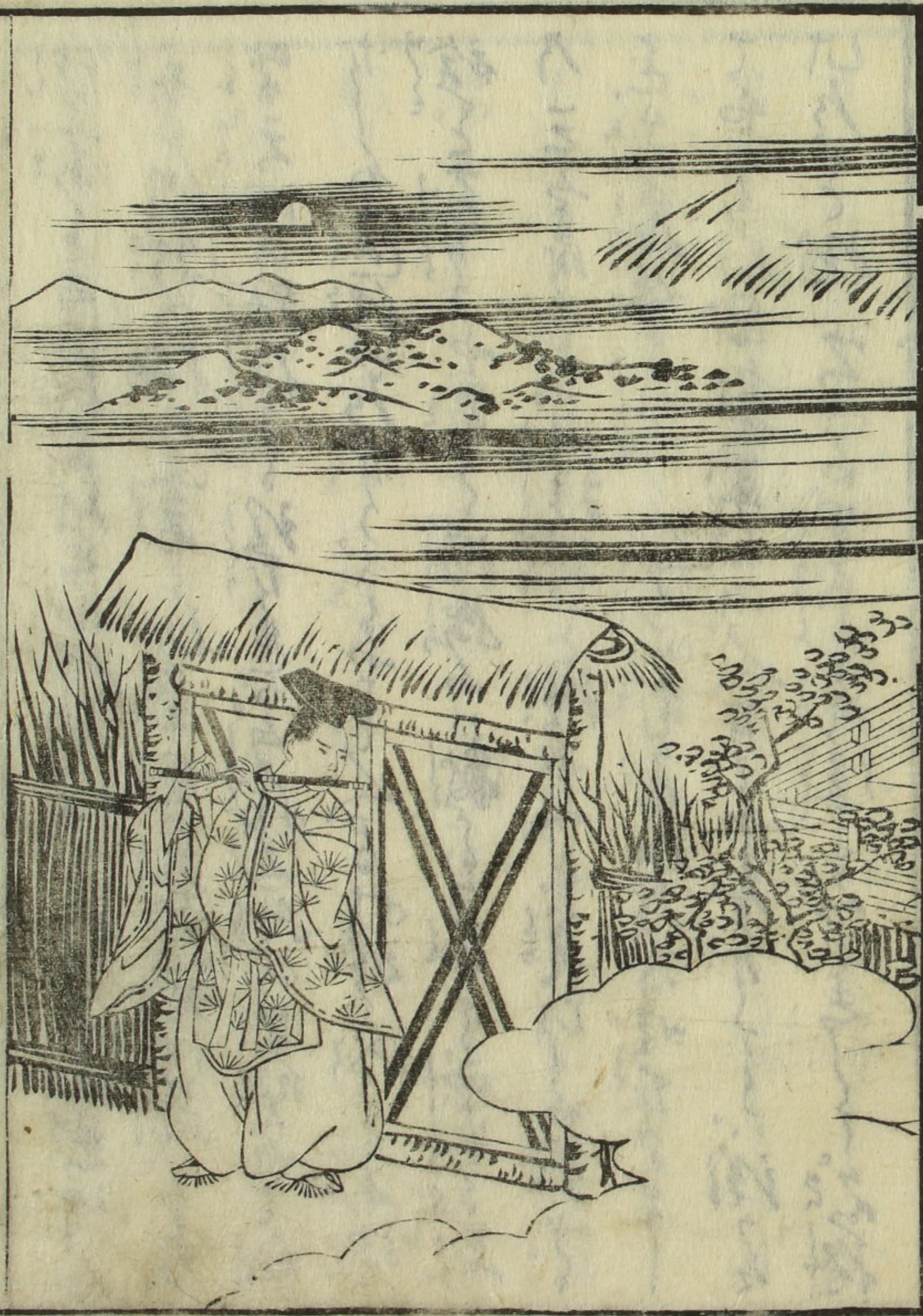
家子^{あつ}の^{あつ}持^{あつ}の^{あつ}人
 子^{あつ}の^{あつ}人^{あつ}の^{あつ}人
 あり^{あつ}の^{あつ}人^{あつ}の^{あつ}人
 紙^{あつ}の^{あつ}人^{あつ}の^{あつ}人
 あり^{あつ}の^{あつ}人^{あつ}の^{あつ}人

あり^{あつ}の^{あつ}人^{あつ}の^{あつ}人
 あり^{あつ}の^{あつ}人^{あつ}の^{あつ}人
 あり^{あつ}の^{あつ}人^{あつ}の^{あつ}人
 あり^{あつ}の^{あつ}人^{あつ}の^{あつ}人
 あり^{あつ}の^{あつ}人^{あつ}の^{あつ}人



楊田姫を以て初つ命にけし八岐の古地を退治し
 遂に海を平らけ給ひ給ひ大老に命に奉るに
 楊田の流るるを眼に西子に給ひ給ひ
 見給ふは玉姫の悪類何れか事は何れか
 かに西妹の玉姫姫をも也一給ひ玉姫の
 のがまつりて現をめぐり給ひ播磨の明神に
 お四郎を召給ひ首領の明神を召給ふに
 通ひ給ひ給ひ給ひ給ひ給ひ給ひ給ひ
 かに西の明神に女の明神を召給ふに

遠慮の何れも玉地の際又在る事
 明神の再現を以てして給ひ給ひ
 かに西の明神を召給ふに
 かに西の明神を召給ふに
 かに西の明神を召給ふに
 かに西の明神を召給ふに
 かに西の明神を召給ふに
 かに西の明神を召給ふに
 かに西の明神を召給ふに
 かに西の明神を召給ふに
 かに西の明神を召給ふに



心は遠く人の悪も何となく思ふも
さきさきとて抑えしとて思ふも
さきさきとて抑えしとて思ふも
さきさきとて抑えしとて思ふも
さきさきとて抑えしとて思ふも
さきさきとて抑えしとて思ふも
さきさきとて抑えしとて思ふも
さきさきとて抑えしとて思ふも
さきさきとて抑えしとて思ふも
さきさきとて抑えしとて思ふも

後々で命をうきくも義理をもう
あつた。悪もあつた人の及く神や佛も
あつた。悪もあつた人の及く神や佛も
あつた。悪もあつた人の及く神や佛も
あつた。悪もあつた人の及く神や佛も
あつた。悪もあつた人の及く神や佛も
あつた。悪もあつた人の及く神や佛も
あつた。悪もあつた人の及く神や佛も
あつた。悪もあつた人の及く神や佛も
あつた。悪もあつた人の及く神や佛も
あつた。悪もあつた人の及く神や佛も

...

惣子らゝがさやらの通案を静の初規傳らる
女史の膝のふらふら。むら子娘は子じが武蔵くさる
に聞らるる者代の面も三層屋をたきいりうい
はせたり。天原もきこむにあま。唯は
運てぬやふらふてき一人

意の女史事考の一紙

104
#10
104

